

平成24年3月期 第2四半期会社説明資料

平成23年11月

株式会社 プラコー

(JASDAQ スタンド・コード. 6347)

平成23年9月末現在

商号 株式会社 プラコー

本社 埼玉県さいたま市岩槻区笹久保新田550番地

代表者 代表取締役社長 秦 範男

設立 昭和35年8月

資本金 1,332百万円

売上高 2,558百万円 (平成23年3月期実績)

従業員 70名

| | |
|----------|--|
| 昭和35年8月 | プラスチック工業㈱を創立（資本金100万円） |
| 昭和36年8月 | 埼玉県川口市に新工場を建設、押出機及びブロー成形機を本格的に生産開始。 |
| 昭和42年10月 | 東京都港区に本店を移転。 |
| 昭和45年5月 | 埼玉県岩槻市（現. 埼玉県さいたま市岩槻区）に浦和工場を新設。 |
| 昭和47年1月 | 商号を株式会社 プラコーと改称。 |
| 昭和47年11月 | 埼玉県川口市に本店を移転。 |
| 昭和48年2月 | 日本証券業協会に店頭売買銘柄として登録。 |
| 昭和48年11月 | 株式額面変更の為、江東機工株式会社と合併。 |
| 昭和55年5月 | プラコーエンジニアリング㈱設立（機械部品加工会社、平成18年4月吸収合併） |
| 昭和62年7月 | 静岡県掛川市に工場用地を取得。 |
| 昭和63年7月 | 埼玉県岩槻市（現. 埼玉県さいたま市岩槻区）に本店を移転。 |
| 平成3年5月 | 静岡県掛川市に掛川工場を新設。 |
| 平成7年1月 | ㈱プラコーテクノサービス設立（メンテナンス会社、平成18年4月吸収合併） |
| 平成9年4月 | リサイクル装置の生産、販売に本格参入し、リサイクル元年とする。 |
| 平成13年3月 | 埼玉県の彩の国指定工場に認定される。 |
| 平成16年12月 | ㈱ジャスダック証券取引所に上場。 |
| 平成18年4月 | 4月1日付けをもって連結子会社2社を吸収合併 |
| 平成20年5月 | 富拉鑫股份有限公司(台湾)設立。(機械製造会社) |
| 平成21年5月 | 富拉鑫股份有限公司(台湾)解散。 |
| 平成22年4月 | 株式会社大阪証券取引所へ上場。（旧株式会社ジャスダック証券取引所） |
| 平成22年10月 | 株式会社大阪証券取引所 J A S D A Q（スタンダード）に株式を上場。 |

(1) インフレーション成形機事業

当部門においては、フィルム製品（レジ袋、ゴミ袋、農ポリ、ラップ、多層、機能）を成形する為のインフレーション成形機を製造及び販売しております。

(2) ブロー成形機事業

当部門においては、中空製品（自動車部品、工業用部品、日用雑貨品）を成形する為のブロー成形機を製造及び販売しております。

(3) リサイクル装置事業

当部門においては、環境保全の一環でありますリサイクル装置（破砕機、再生機、再生品成形）を自社技術と一部を海外メーカーとの提携による技術によって製造及び販売をしております。

(4) メンテナンス事業

当部門においては、機械メンテナンス及び部品の販売を行なっております。

平成24年3月期 第2四半期 決算概要

株式会社 プラコー

(JASDAQ スタンド・コード . 6347)

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災と原発事故で発生したサプライチェーンの寸断による生産の混迷、欧州経済破綻を起点とする世界金融市場の混乱による世界経済の不安や円高の進行など、先行き不透明感が拭えない状況が続いております。

当社の関係するプラスチック加工業界及び環境関連業界においては、一部に新機能、新分野商品の市場展開はあるものの、円高の進行による景気の低迷、自動車関連企業の新興国への工場移転が加速するなど、全体的には厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況下、営業面では、引続いて新分野商品及び新規の受注に向けて全社挙げて活動いたしました。また、生産面では、海外生産の増加によるコスト低減の推進、生産性の向上に努め、利益率が改善されました。固定費についても更なる削減を進め実効をあげることができました。

以上の結果、当第2四半期累計期間においては、売上高は受注の減少の影響もあり、11億5千1百万円と前年同四半期と比べ4千9百万円減（前年同四半期比4.1%減）となりました。利益面につきましては、売上高は減少したものの、コスト削減及び固定費の減少などにより損益分岐点が改善されたことから、営業利益4千4百万円（前年同四半期は営業利益2千5百万円）、経常利益3千3百万円（前年同四半期は経常利益1千万円）、四半期純利益2千4百万円（前年同四半期は四半期純利益7百万円）となり、前年同四半期に比べ利益が大幅に改善されました。

損益計算書（非連結）



株式会社 プラコー

（単位：百万円）

| | 22年9月期 | 23年9月期 | 前期比 | 備 考 |
|--------------|--------|--------|------|--|
| 売上高 | 1,201 | 1,151 | △ 49 | ① 巻取機を含めた大型インフレーション成形機の納入 ② 高効率押出機等への入替え需要 ③ 自動車部品メーカーの海外への生産拠点移転に伴う需要 ④ 既設設備を有効活用するための補修工事増加 |
| 売上原価 | 915 | 857 | △ 58 | 生産コストの削減 |
| 販売費及び一般管理費 | 259 | 249 | △ 10 | ① 人件費減少 6 ② 業務委託費減少 4 |
| 営業利益 | 25 | 44 | 19 | |
| 営業外収益 | 4 | 4 | - | |
| 営業外費用 | 19 | 15 | △ 4 | 支払利息減少 |
| 経常利益 | 10 | 33 | 23 | |
| 特別利益 | - | - | - | |
| 特別損失 | - | 6 | 6 | 株式評価損 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 2 | 2 | - | |
| 当期純利益 | 7 | 24 | 17 | |

貸借対照表（非連結）



株式会社 プラコー

（単位：百万円）

| | 22年9月期 | 23年9月期 | 増 減 | 備 考 |
|------------|---------|---------|-------|---|
| 流動資産 | 922 | 914 | △ 7 | 現預金の増加 235、売上債権の減少 93、棚卸資産の減少 100 前渡金の減少22 |
| 固定資産 | 765 | 740 | △ 25 | 減価償却費 12、投資有価証券の評価減 10 |
| 繰延資産 | 8 | 4 | △ 4 | 株式交付費償却 |
| 資産合計 | 1,697 | 1,659 | △ 37 | |
| 流動負債 | 1,088 | 910 | △ 178 | 支払債務の減少 129、短期借入金の減少 85、前受金の増加 55 |
| 固定負債 | 566 | 639 | 72 | 長期借入金の増加 76 |
| 負債合計 | 1,655 | 1,549 | △ 105 | |
| 資本金 | 1,332 | 1,332 | 0 | |
| 資本剰余金 | 131 | 131 | 0 | |
| 利益剰余金 | △ 1,530 | △ 1,468 | 62 | |
| 自己株式 | △ 5 | △ 5 | 0 | |
| 株主資本合計 | △ 71 | △ 9 | 62 | |
| 評価・換算差額等合計 | 113 | 118 | 5 | |
| 純資産合計 | 42 | 109 | 67 | |
| 負債純資産合計 | 1,697 | 1,659 | △ 37 | |

キャッシュ・フロー計算書（非連結）



株式会社 プラコー

| (単位：百万円) | 22年9月期 | 23年9月期 | 比較増減 | 備 考 |
|----------------------|--------|--------|------|---|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | △ 15 | 41 | 57 | ①税引前四半期純利益の増加 17 ②売上債権及び棚卸資産の減少 162 ③仕入債務の減少 △153 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △ 2 | △ 7 | △ 5 | 長期前払費用の支出 5 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 28 | 154 | 182 | ①短期借入金の減少 51 ②長期借入れの収入増加 63 ③長期借入金の返済支出の減少 67 |
| 現金及び現金同等物の 増減額 | △ 46 | 188 | 234 | |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 85 | 136 | 50 | |
| 現金及び現金同等物の 期末残高 | 39 | 324 | 285 | |

部門別売上高

(単位：百万円)

| 部 門 | 22年9月期 | | 23年9月期 | | 比較増減 | |
|---------------|--------|--------|--------|--------|------|---------|
| | 売上高 | 構成比 | 売上高 | 構成比 | 売上高 | 増減率 |
| インフレーション成形機事業 | 705 | 58.7% | 698 | 60.7% | △ 6 | △ 0.9% |
| ブロー成形機事業 | 293 | 24.4% | 246 | 21.4% | △ 46 | △ 16.0% |
| リサイクル装置事業 | 39 | 3.3% | 31 | 2.7% | △ 7 | △ 19.7% |
| メンテナンス事業 | 162 | 13.6% | 175 | 15.2% | 12 | 7.4% |
| 合 計 | 1,201 | 100.0% | 1,151 | 100.0% | △ 49 | △ 4.1% |

インフレーション成形機事業

巻取機を含めた大型インフレーション成形機に加え、高効率押出機等への入替え需要により前年並みに推移

ブロー成形機事業

自動車部品メーカーの海外への生産拠点移転に伴う需要や電動ブロー成形機などの新分野が貢献したが、景気後退の影響により売上減少

リサイクル装置事業

廃プラスチックの取引価格の下落と景気後退によるリサイクル装置の設備投資の減少。

メンテナンス事業

補修部品や工事等の受注増加。

平成24年3月期 業績予想

株式会社 プラコー

(JASDAQ スタンド・コード. 6347)

業績予想（非連結）

| （単位：百万円） | 23年3月期 | 24年3月期 （予想） | 増 | 減 |
|----------|--------|----------------|---|-------|
| 売上高 | 2,558 | 2,600 | | 41 |
| 経常利益 | 60 | 87 | | 26 |
| 当期純利益 | 44 | 77 | | 31 |
| EPS（円） | 1.66 | 2.84 | | 1.18 |
| ROE（%） | 66.5 | 60.2 | | △ 6.3 |

EPS＝1株当たり当期純利益

ROE＝自己資本当期純利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

経営方針

当社は、インフレーション成形機及びブロー成形機などのプラスチック成形機各種と、環境リサイクル機器の製造、販売を主たる業務として、社会生活の向上と環境保全に役立つ商品を提供することによって、社会に貢献すると共に、適正利益の確保と企業の発展を目指し、さらには、株主への適正配当と従業員生活を安定、向上させることを基本方針としております。

今期の取り組み

(販売促進施策)

- ①太陽光発電フィルムや光学フィルムなどの当社の先進的な技術を組み込んだ多層インフレーション成形機及び地球環境と工場環境の保全とクリーン化に貢献する電動式ブロー成形機の拡販。また、東日本大震災の復旧、復興に貢献すべく積極的な販売活動を展開して売上高の増加を図る
- ②国内外で開催される各種展示会及び社内展示会における新商品紹介
- ③業界新聞、雑誌及びホームページでの新商品紹介
- ④海外に強力なネットワークを有する商社との連携による新興国市場の再獲得
- ⑤部品、メンテナンス工事の受注拡大戦略

(生産コストダウン施策)

- ①設計面からの過剰仕様、過剰品質の排除
- ②正確なコスト分析によるリーズナブルな仕入コストの設定
- ③海外調達、海外生産に係る技術指導による品質維持と量的拡大
- ④生産システムの見直しと改善による生産性の向上
- ⑤新興国市場に適合する商品仕様、商品品質の再設定

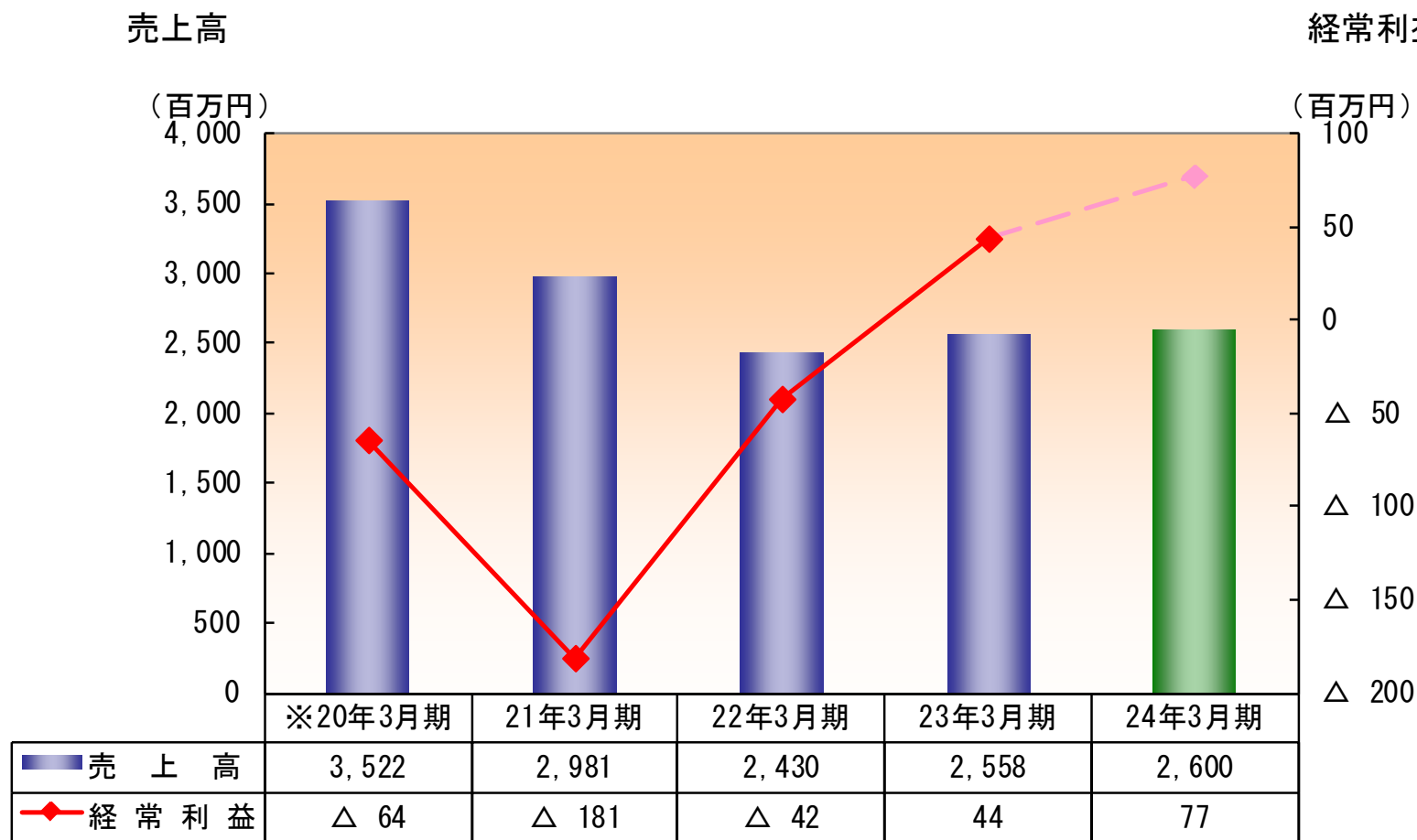
(固定費削減施策)

- ①諸業務現状におけるムリ、ムダ、ムラをなくして労務費を削減する
- ②業務フローと諸システムの合理化、効率化を更に進め、人材の有効活用と固定費削減を図る
- ③月次固定費を限界利益以内に抑えることを目指す

(財務強化施策)

- ①売上代金回収の徹底と契約金の促進
- ②適正資金調達のための銀行借入の実行
- ③信用状取引の復活
- ④手形割引枠の拡大

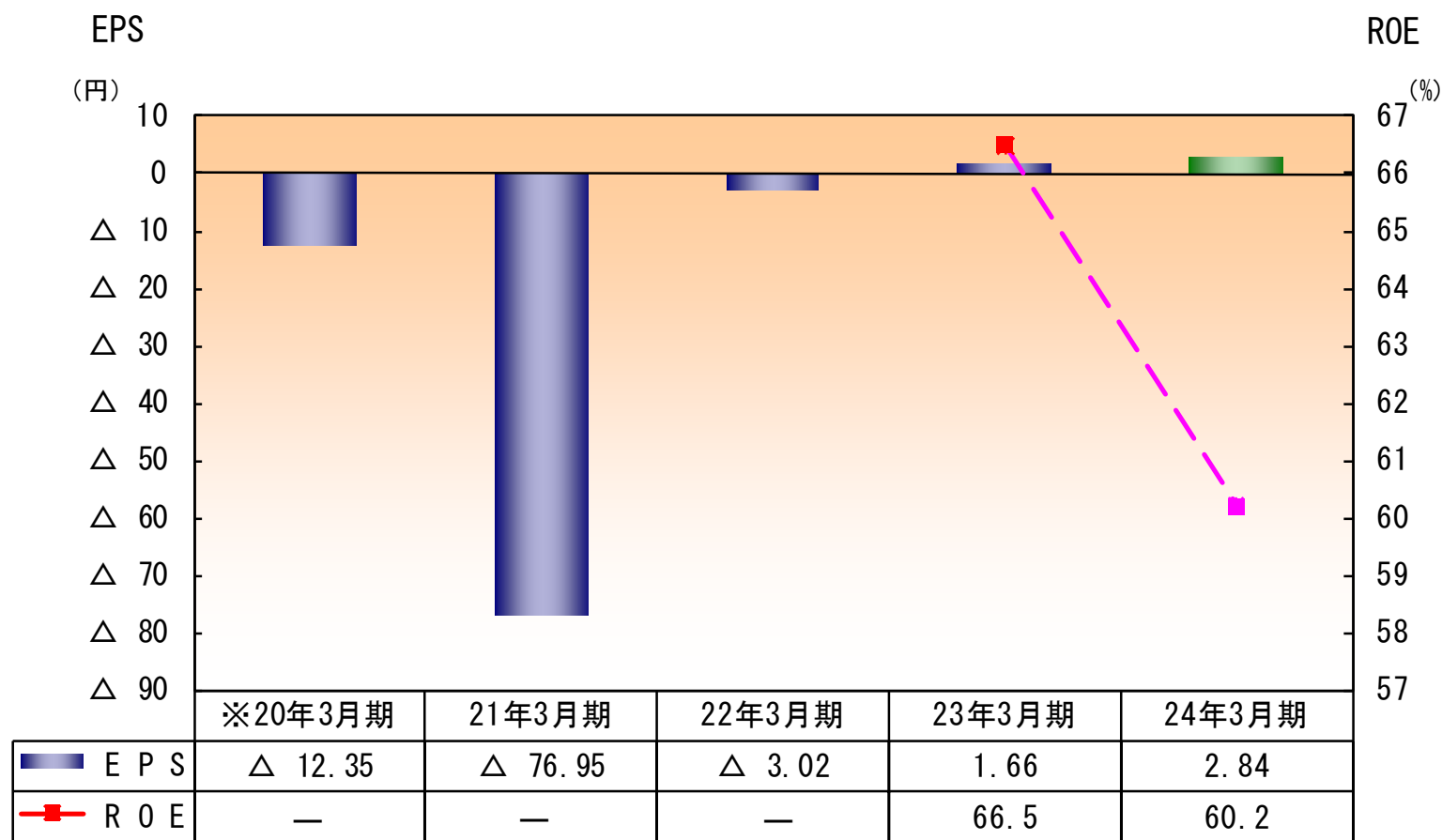
売上高・経常利益の推移（非連結）



※20年3月期は、平成20年9月26日に訂正報告書提出後の数値です。

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

EPS・ROEの推移（非連結）



EPS=1株当たり当期純利益

※20年3月期は、平成20年9月26日に訂正報告書提出後の数値です。

ROE=自己資本当期純利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

 株式会社 プラコー

担当部： 総務・経理部

T E L： 048-798-0222

E-mail： placo@placo.co.jp